



文京フィルハーモニック管弦楽団 第24回定期演奏会

指揮 野 勝治

【日時／会場】

2023/

9/24^{SUN}

13:30開演13:00開場

板橋区立文化会館

大ホール

【プログラム】

シューマン
交響曲第2番 ハ長調

グリーグ
ホルベルグ組曲(管弦楽版)

シベリウス
交響曲第5番 変ホ長調

出来ないことを楽しもう

入場無料・チケット不要
未就学児の入場OK!

お問い合わせ

concertinfo@bpo.tokyo

アドレス



楽員募集中

オーディションはありません

<https://www.bpo.tokyo/>



@bpo2006

文京フィル

検索

会場アクセス

東武東上線「大山」駅

北口から徒歩約3分

都営三田線「板橋区役所前」駅

A3出口から徒歩約7分

地図



指揮者紹介・挨拶



野 勝治

No Masaharu

本日は、文京フィルハーモニック管弦楽団第24回定期演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。

この3年、アマオケにとっても受難の日々が続きました。満身に練習できなかつたり、練習できても感染症対策で窮屈な思いをしたり、意思疎通のため重要な役割を果たしていた食事会が実施できなかつたり…。然し、そうした状況の中でも、なんとか今日の日を迎えることができました。

本日の3曲は、ともに難易度が高く、過去の選曲とは違った「文京フィルらしい」チャレンジングなプログラムになったと思います。あちこち綻びがあるかもしれませんが、一生懸命演奏いたしますので、ハラハラドキドキと一緒に味わっていただければと思います。

-
- ・ 1967年北海道札幌市生まれ
 - ・ 1995年27歳の時に急に思い立ちアルル音楽学院にて白濱俊宏氏、林哲也氏、石川済氏にトロンボーンを師事。
 - ・ 2003年1月楽団カーニバル2001フィルハーモニーオーケストラ入団。
 - ・ 同年7月指揮者就任。
 - ・ 同年9月楽団カーニバル2001フィルハーモニーオーケストラ第1回定期演奏会にて、ヨハン・シュトラウス「美しく青きドナウ」で指揮デビュー。音楽監督就任。
 - ・ 同年12月楽団カーニバル2001第1回総合音楽祭にてメンデルスゾーン「結婚行進曲」を指揮。
 - ・ 2004年9月楽団カーニバル2001フィルハーモニーオーケストラ第2回定期演奏会にて、シューベルト「交響曲7番 未完成」を指揮。
 - ・ 2005年8月楽団カーニバル2001フィルハーモニーオーケストラ第3回定期演奏会に、ショスタコーヴィッチ「交響曲5番」を指揮。
 - ・ 同年10月東邦音楽大学エクステンションセンターにて家田厚志氏の指揮法入門受講。
 - ・ 同年12月より06年3月まで池袋コミュニティカレッジにて橋本久喜氏の指揮法講座受講。
 - ・ 2006年7月東京芸術大学公開講座にて小林研一郎氏の指揮法入門受講。

楽団紹介

文京フィル ハーモニック 管弦楽団



文京フィルハーモニック管弦楽団は2006年7月設立の楽団です。楽器初心者や合奏未経験者と一緒に管弦楽を楽しむことを目的として設立されました。

- Audier, Spectare beneをモットーとします。
- 楽器初心者・合奏未経験者を中心とした楽団です。
- 練習に来ない上手な人より、練習に来る下手くそを大切にする楽団です。
- 技術の向上のみならず、人間的なつながりを大切にする楽団です。
- 「毎回本番」を標榜し、練習を大切にする楽団です。
- リズム、メロディー、ハーモニーを大切にする団です。
- 他のアマオケがやっているから、という理由だけで音楽をしない楽団です。
- 練習した曲は使い捨てではなく、レパートリーに出来る楽団です。
- 室内楽に積極的に取り組み、演奏技術の向上を図る楽団です。
- 色んな音楽のあり方を否定しない楽団です。
- 先生やトレーナーはいません（今のところ）、音楽を習う場ではなくて、演奏を実践する楽団です。

●一緒に音楽を楽しむ仲間を募集しています。詳しくはホームページをご確認ください。皆様と演奏できる日を楽しみにしております。

プログラム

1. ホルベルク組曲

エドヴァルド・グリーグ
(Edvard Hagerup Grieg)
／(Joshua Choe編曲)

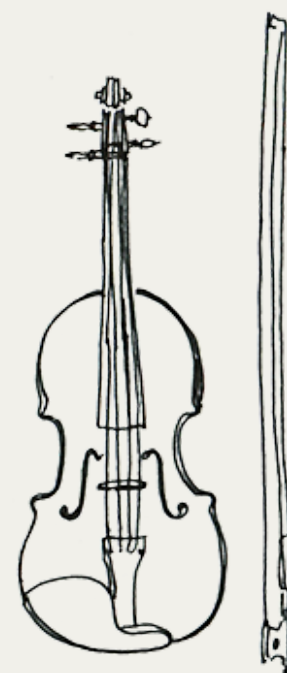
2. 交響曲第5番

ジャン・シベリウス
(Jean Sibelius)

..... 休憩

3. 交響曲第2番

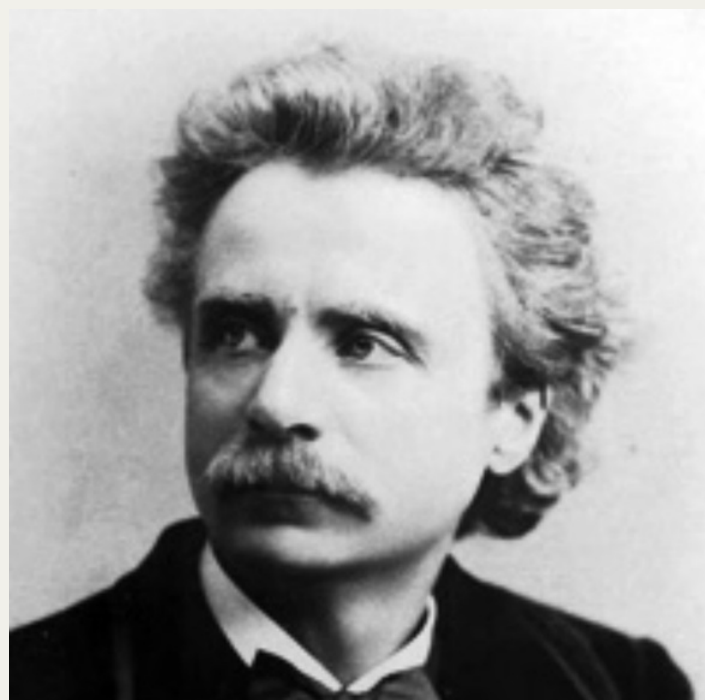
ロベルト・シューマン
(Robert Alexander Schumann)



楽曲解説

ホルベルク組曲

エドヴァルド・グリーグ
(Joshua Choe編曲)



ホルベルク組曲は1884年にまずはピアノ曲として発表されました。

翌年にはグリーグ自らの手で弦楽合奏に編曲されました。疾走感あふれる第一曲から最後の第五曲まで、さわやかで素朴な印象の曲が並び、グリーグの生まれたノルウェーとは、夏は爽やかな場所なのだろうと思わせる作品です。

今回私たちが演奏するのは、昨年Joshua Choeという方がオーケストラ用に編曲したバージョンになります。著作権切れになったクラシックの楽譜や自分の作品を投稿できるウェブサイトがあるのですが、そこに投稿されたバージョンです。Joshua Choe氏の経歴の詳細は分かりませんが、韓国の方のようで、150曲ほどの編曲をしています。

このオーケストラ用の編曲では「対比」が鍵になっているように思います。管楽器と弦楽器の対比、強弱の対比、テンポの対比、ありとあらゆるところに対比が埋め込まれています。対比で音楽を作るというコンセプトはもともとバロック音楽の時代からあり、グリーグはホルベルク組曲でこのコンセプトを採用していました。オーケストラ用の編曲では、より一層対比が鮮やかになっているように思います。一方で、個々の楽器に少々無理をさせている箇所もあり、なかなか一筋縄ではいかないところではあります。

この爽やかな感じを少しでもお届けできたらなと思います。



楽曲解説

交響曲第5番

ジャン・シベリウス



ジャン・シベリウスは 19 世紀半ばから 20 世紀前半にかけて活躍した、フィンランドの国民的英雄と言われる作曲家である。交響曲第5番は第一次世界大戦の渦中に作曲された。戦火のあおりを受けて生活が一変。ゆとりがなくなる中で、シベリウスは自身の感覚を研ぎ澄ませ、第5番の着想を練っていった。シベリウスの日記の中に「16羽の白鳥があらわれ、頭上を旋回し、陽の光の靄の中を、輝くりボンがたなびくように消え去っていった」と記している。更に日記には「最大の感動」とも記されており、美しい情景がシベリウスの頭の中に広がっていることがうかがえる。



1楽章はホルンの豊かな主題が、雄大な自然を連想させるところから始まる。この主題は、転調を繰り返しながら、時には不安定になり「混沌」を生み出していく。終盤ではトランペットが冒頭の問題を高らかに歌い上げ壮大に終わる。

2楽章は弦楽器のピッチカートがより細やかな情景を映し出している。主題以外はハーモニーに徹することにより主題が際立つような構造になっている。

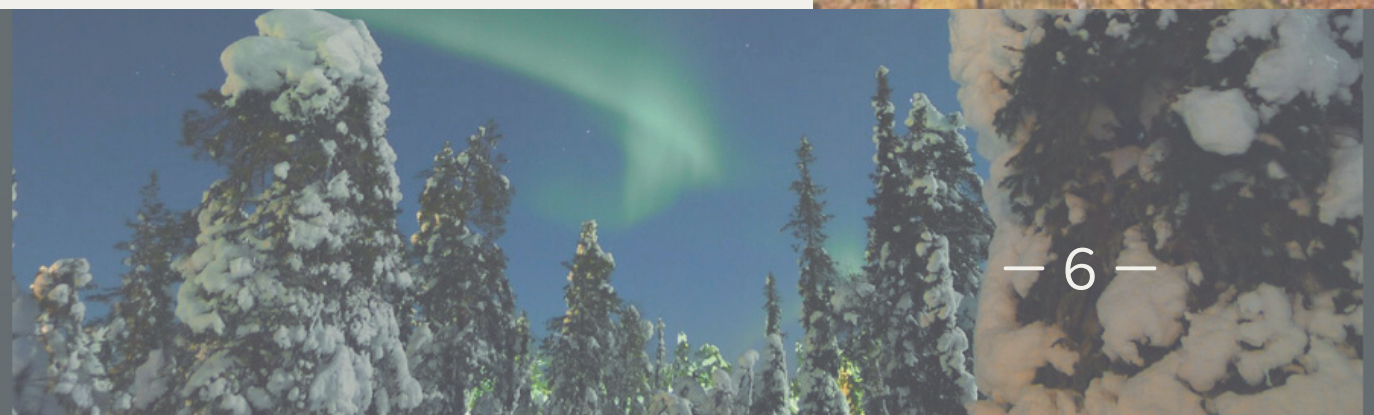
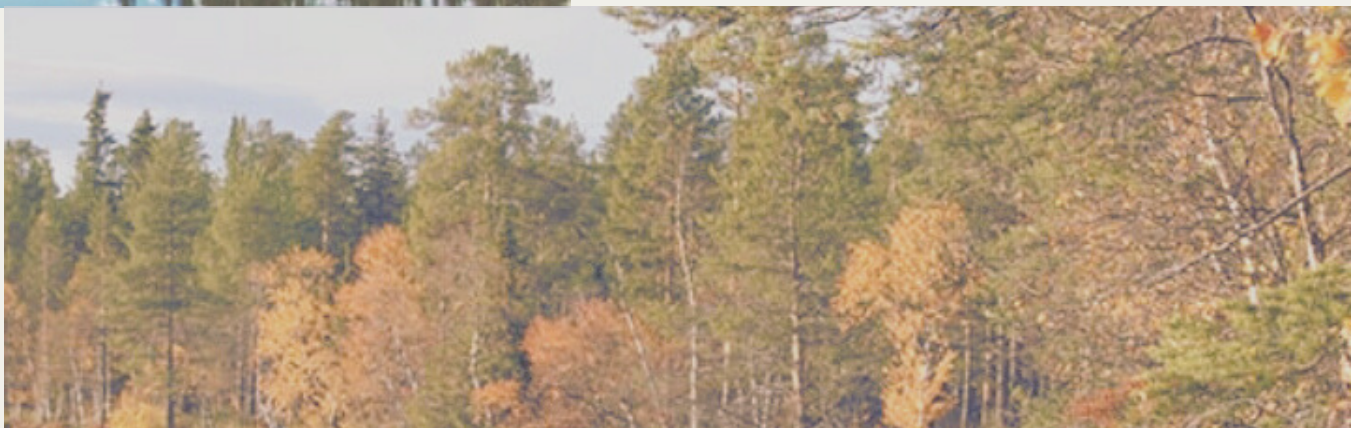


3楽章は弦楽器の活気のある刻みから始まり、春の喜びが体現されている。1楽章、2楽章の主題が随所に散りばめられ、転調を繰り返しながら深みを増していく。フィナーレでは突如鳴り響くトランペットが16羽の白鳥の姿を表現したとも言われており、フィンランドの雄大な自然、美しい木々、湖の水面が輝く様など、なんとも神秘的な感銘が心に残る。

時に皆さんは「シス」という概念をご存じだろうか。「シス」とはフィンランドの気質のようなもので、「耐える」「我慢強い」などの意味が込められていると、とある指揮者が話していた。長く過酷なフィンランドの冬。それに加えて、第一次世界対戦のさなか、身も心も徐々に蝕まれていったことと思う。しかし、一筋の光を決して諦めずに雪解けを待つ姿勢は、まさに「シス」という言葉がふさわしいと感じる。交響曲第5番は、自然の雄大さだけでなく、フィンランドの国民性や古くからの意思の強さが感じ取れるようなシンフォニーなのだ。

思えば当団も長い長い冬を経てこの曲に取り組んできた。一度落ちたら二度と戻れなくなる恐怖、はまらない和音、複雑なリズム。このままこの曲を演奏会で行うのは無謀ではないかと、半分以上の団員が思ったに違いない。私もその一人である。しかし、練習を重ねるごとに少しずつ垣間見えるフィンランドの大自然が、知らず知らずのうちに私たちの心を奪い、虜にしていった。

本日の演奏は、傷だらけの団員たちがズタボロになりながら演奏する姿が見所である。私たちの心の中に「シス」という意思を宿し、演奏をしている中で一瞬でも光を見つけられたらと思う。お客様にはぜひその雄姿を見届けていただき、その姿勢を少しでも感じたら小さく拍手をしていただけたら幸いです。



楽曲解説

交響曲第2番

ロベルト・シューマン



シューマン株式会社って！

そんな大作曲家の名前を使うなんて、いったい何する会社なの？

何を隠そう、この文章を書いている本人がかつて創業し、12年間に渡り経営していた会社です。

ドイツ企業（ダイムラーやツァイスなど）と産業翻訳者をマッチングさせ、出来上がった翻訳をドイツに納品する仕事を主たる営業内容としていました。

では、なぜシューマン？

それは、たまたま創業の直前にトッパンホールで聴いたシューマンのピアノ五重奏曲にひどく感銘を受けたことと、時期を同じくして息子がユースオーケストラで弾いていた曲がシューマンの交響曲第3番『ライン』だったという偶然が重なったためです。

思えば、ドイツ音楽に憧れて独文科に進学。ドイツに住んだことはないけれど、旅行では何度もドイツを訪れ、東西ドイツ統一前の旧東ドイツ時代と統一後の合計3回にわたって、ライプツィヒとドレスデンを訪ねました。

ライプツィヒとドレスデンはいずれもシューマンゆかりの都市です。

さて、シューマンと聞くと、「ロマンチック」「妻クララ・シューマンとの睦まじい愛の生活」などを思い浮かべる人が多いと思いますが、実は精神的にかなり病んでいた時期がありました。

そんな頃（1839年）にシューマンは、メンデルゾーン指揮のライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団でシューベルトのハ長調交響曲「グレート」の初演を組織しています。その演奏からインスピレーションを受け、自らのハ長調交響曲の着想を得たらしい点は大いにうなづけます。

さて、シューベルトのハ長調交響曲「グレート」の初演から5年後の1844年にシューマン夫妻は主治医の勧めによりライプツィヒからドレスデンへ引っ越しています。筆者が旧東ドイツ時代に宿泊したドレスデンのホテルの近くを流れていたエルベ川のほとりで静養していたシューマンは、1845年末までにこのハ長調交響曲をほぼ完成しました。そして翌年、ライプツィヒでメンデルスゾーン指揮によるライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の演奏で初演されました。

第1楽章

この世のものとは思えない神がかった金管に続き、弦のユニゾンが静かに始まる。この金管はこの曲全体を支配する主要な動機のひとつとなっている。ほどなくして突如、激しい起伏が始まり、その後アレグロから明るくなるも、やがてさまざまな楽器が複雑に絡み合うかけあいを繰り返して、悶々として終わる。

第2楽章

スケルツォ。ヴァイオリンによる16分音符の軽快な旋律。中間部にトリオを含み、駆け抜けるようなコーダで華麗に終わる。

第3楽章

内面的な感情に満ちたカンタービレ。ヴィオラの静かな語りかけの上にヴァイオリンが美しい旋律を奏でる。やがてオーボエとファゴットに引き継がれ、再びヴァイオリン。そして木管へと受け継がれて、静かにこと切れる。

第4楽章

第3楽章の内面的な感情から解き放たれたように始まるが、紆余曲折を経て、冒頭の動機に戻り、「ハ長調のトランペットとティンパニの音が頭から離れない」

と言ったシューマン自身の言葉通り、ハ長調による壮大な幕切れを迎える。

かつてライプツィヒを訪れたときには、まさか自分がこのような名曲の演奏に参加できるなどとは夢にも思っていませんでした。

私の弦楽器との出会いは大学オケのヴィオラでしたが、事情あって1年半でやめてしまいました。それから半世紀（文字通り50年）を経た今、何とかして人生に思い残すことがないようにと再開することを後押ししてくれたのがこのオケです。

【出来ないことを楽しもう】

のキャッチに惹かれて合奏を体験・見学しました。

前回の演奏会（2023年1月）の2ヶ月前のことでしたが、いきなりブラームスやベートーヴェンといった大曲が弾けるはずがありません！

「初心者歓迎、長年のブランクがある人もOK」といった文言は他のアマチュアオーケストラの募集ページでもよく見かけますが、他の楽団も色々体験してみた結果、名実ともに偽りのない文言を掲げているのが、唯一この楽団でした♪

これというのも、厳しいけれど一貫してブレのない音楽監督のアマオケ創立精神が大きく影響しています。

別のアマオケのコンサートマスターとして10年前にこのハ長調交響曲を演奏した息子には筆者の人生があと30年あっても追いつけません、老母は老母なりの歩みで【出来ないことを楽しんでいます♪】。

さあ、こんなお婆さん（7月に初孫誕生👶）でも、まだまだ夢を諦めるのには早いのですから、この文章を読んで興味を持った方は是非、臆することなく体験見学に来てください！（楽器を持っていることが前提条件ではありますが）

現在ドイツ人団体のインバウンド観光ガイドをしています、コロナ明け初のツアーに参加された旧東ドイツ、ザクセン州にあるシューマンの生誕地ツヴィッカウに住むお客様からこのほどシューマンの生家（ロベルト・シューマン・ハウス）の画像が送られてきたのでシェアさせていただきます。

執筆者:大谷みち子（ヴィオラ）



出演者一覧

<1st Violin>

大嶋 涼子
河村 世礼奈
坂本 昌士
寺田 未登 ♪
矢嶋 菜月

<2nd Violin>

荒井 葉子
大澤 晶子
片山 貴博 ♪
草野 友紀
小西 康貴
小西 夕佳里
山本 洋子

<Viola>

大谷 みち子
川上 晴輝 ♪
高橋 誠
茶木 京子

<Cello>

古賀 美紀
郡司 ふみ
田村 崇行 ♪
朴 善恵

<Contrabass>

上田 慎也 ♪

<Flute>

木村 華子 ♪
高野 真里
武富 美由紀

<Oboe>

生野 大介
内田 有紀
山田 睦雄 ♪

<Clarinet>

ジェイコブソン 陽子
末岡 和子 ♪

<Fagott>

新井 友樹
倉嶋 和良 ♪

<Conductor>

野 勝治

<Trumpet>

市川 翼
関田 伸雄
野村 英司 ♪

<Horn>

大西 萌
鈴木 健一 ♪
鈴木 祐佳
藤井 琢也★

<Trombone>

大塚 剛史★
大山 淳史★
曾布川 拓也★

<Timpani>

塚田 真由美 ♪

♪ パートリーダー

★ 賛助出演